

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174700815		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム広尾ふれあい館1・2		
所在地	広尾郡広尾町字紋別19線49番17 (電話) 01558-9-5022		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年1月11日	評価確定日	平成20年2月22日

## 【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	14,500 ~ 19,300 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	5	要介護2	5
要介護3	6	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 78 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	広尾町国民健康保険病院・なかの歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は広尾町の小集落到立地し、平成15年に開設された。事業所付近は自然豊かであり、利用者はゆったりと穏やかに生活している。地域との交流が深まりつつあり、職員は「ゆっくり・一緒に・楽しく生活すること」を目指し日々のケアサービスに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった項目について運営推進会議で報告し、改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で協議し、管理者がまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表・地域住民代表・地域包括支援センター職員等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では事業所の行事等について報告し、そこで出た意見を事業所の運営に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月便りでの利用者の暮らしぶりや健康状態等について家族に報告している。また、職員は日頃から家族が気軽に意見・苦情等について伝えられる雰囲気づくりに勤め、家族から意見等を受けた場合は職員間で協議し、改善に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	多数の利用者が老人会に加入し、行事に参加している。また、近隣保育園等と交流するなど、地域との連携を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的環境の中で、利用者がその人らしくゆっくり楽しく過ごすことを盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は会議や研修時に理念を確認し、日々その実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	多数の利用者が老人会に加入し、行事に参加している。また、近隣保育園の行事に参加したり、毎月地域ボランティアの訪問を受けるなど、地域との連携を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で項目ごとに話し合い、管理者がまとめ自己評価に取り組んでいる。また、改善項目については協議し、日々のケアサービスに反映させている。	○	今後、自己評価を日々のケアサービスを振り返る機会とし、全職員で取り組むことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	利用者家族・地域住民代表・地域包括支援センター職員等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況等について報告し、地域に事業所への理解を深める機会として活用している。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	町の担当者や社会福祉協議会と連携を取り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月便りを家族に送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。金銭管理については明細書と領収書を家族に送付し、詳細を伝えている。	○	今後、出納帳を作成し内容をより明確にすることが期待される。
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項説明書に事業所内部・外部の苦情相談窓口を掲示し、家族に説明している。また、意見等を受けた場合は職員間で協議し改善に取り組んでいる。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員を新規採用する場合は実習や夜間勤務を繰り返し行い、また残った職員が不安解消に勤め利用者へのダメージを防ぐよう配慮し利用者と馴染みの関係を築けるよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は年に2回法人内部の研修に参加し、他の職員は採用時研修を受講している。しかし、全職員が内部・外部の研修に参加するまでには至っていない。</p>	○	<p>今後は定期的に全職員が内部・外部研修を積極的に受講し、職員のスキルアップを図りケアサービスの質の向上に取り組むことが期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同業者と交流する機会があり、そこの情報等を職員間で共有している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に職員は利用者家族と面談し、聞き取りにより情報収集を行い、事業所の雰囲気馴染めるよう配慮している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者との関わり合いを大切にし、一人ひとりの得意なことを教えてもらいながら支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者本人・家族からの情報をもとに生活歴等を把握し、その人らしい暮らしとなるよう配慮している。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者家族の意見や職員の気付きを採り入れ、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1度の見直しを行うとともに、利用者の健康状態の変化に応じて職員間で再検討し、新たな介護計画を作成している。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	買い物や知人宅訪問時の付き添いや受診の際の送迎など、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者それぞれのかかりつけ医や協力医療機関への受診支援を行っている。また、訪問による往診も行うなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化・終末期についての方針について、利用者の希望を聞き、家族・主治医を交えて話し合い、情報を共有しながら対応している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者の誇りを損ねることのない声かけや対応を心がけており、適切に支援している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員は利用者のペースを大切に、その日の体調や希望に応じた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みを採り入れた献立を組み、また粥や刻み食など一人ひとりの健康状態に応じた調理方法を工夫している。また、利用者の力量に応じて食事の準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を考慮し、週に3回の入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや掃除・洗濯物干し・草刈など、利用者の生活歴や力量に応じた役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候を考慮しながら、散歩や買い物などの外出支援を行っている。また、利用者の知人宅を訪問することもあり、一人ひとりの希望に応じて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯上の理由から玄関に施錠している。また、玄関にはブザーを設置するなど工夫しているが、利用者の状況に合わせ家族の了承を得た上で日中に施錠することがある。また、居室は鍵をかけていない。	○	今後、職員の声かけや見守りなどにより日中は玄関を施錠せず、利用者が自由に出入りできるよう支援することが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導のもと、利用者も参加した避難訓練を年に2回実施している。また、緊急時の対応マニュアルを作成し、事務室に掲示している。	○	今後、夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の残食量を毎日確認し、栄養補助食品を採り入れるなど、一人ひとりに応じた栄養バランスが摂取できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には花や装飾品等により季節感を感じられるような工夫をしている。また、光・音にも配慮しており、利用者が居心地良く過ごせるような空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇・調度品等が持ち込まれ、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。